○ピレンゼピン塩酸塩錠　［内］

【重要度】★　【一般製剤名】ピレンゼピン塩酸塩水和物（U）　Pirenzepine Hydrochloride hydrate　【分類】胃炎・消化性潰瘍治療剤［抗コリン］
【単位】○25mg/錠
【常用量】75～100mg/日
【用法】1日3～4回
【透析患者への投与方法】腎クリアランスの寄与率，透析性より75%に減量（5）
【保存期CKD患者への投与方法】Ccr 10mL/min以上：減量の必要なし，Ccr＜10mL/min：75%に減量（5）
【その他の報告】Ccr＜10mL/minでは減量すべきかもしれない（MacGregor T, et al: Eur J Clin Pharmacol 38: 405-406,1990）
【特徴】胃酸分泌抑制作用，抗ガストリン作用を有するムスカリン受容体の選択的拮抗剤.
【主な副作用・毒性】無顆粒球症，アナフィラキシー様症状，消化器症状，口渇，排尿障害，残尿感，ふらつきなど
【F】33.5%（Vergin H, et al: Arzneimittelforschung 36: 1409-1412,1986）26%（1）
【tmax】2～4hr（1）2hr（Hayakawa A, et al: Arzneimittelfoschung 37: 980-982,1987）
【代謝】腎・肝から未変化体として80～90%排泄される（U）ほとんど代謝を受けない（1）
【排泄】尿中回収率10%［po］（1）
【CL】263mL/min（Vergin H, et al: Arzneimittelforschung 36: 1409-12,1986）255mL/min［iv］（1）腎CL=129mL/min（1）
【t1/2】8～13hr（1）10～12hr（U）7.7hr（Vergin H, et al: Arzneimittelforschung 36: 1409-12,1986）13.9～17.9hr（Hayakawa A, et al: Arzneimittelfoschung 37: 980-2,1987）
【腎不全患者のt1/2】Ccr 30～70mL/min：14.7hr，Ccr 10～30mL/min：18ｈｒ，Ccr＜10mL/min：17.3hr（MacGregor T, et al: Eur J Clin Pharmacol 38: 405-6,1990）
【蛋白結合率】12%（1）
【Vd】0.255L/kg（Vergin H, et al: Arzneimittelforschung 36: 1409-12, 1986）Vc=14L/man（1）
【MW】442.34［塩酸塩水和物］
【透析性】25%（MacGregor T, et al: Eur J Clin Pharmacol 38: 405-6,1990）
【効果発現時間】
【最大効果発現時間】
【効果持続時間】内服：
【備考】アルカリ尿により排泄遅延が認められる（U）ガストロゼピンは販売中止
【更新日】20240424

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。
※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。